

南米の左傾化は止まるのか・ボリビアの選挙 (625号)

2025年 11月 石館

南米ボリビアで10月19日、大統領選の決選投票が開票され、野党の中道派バス議員が当選を確実にした。反米色の強かった社会主義の長期政権が幕を下ろし、新政権は経済開放への転換を図る見通しだ。

新大統領は11月8日に就任し、任期は5年。バス氏の勝利により、暫定政権期を除き約20年間続いた左派政権に終止符が打たれる。



21世紀初めに中南米諸国で左派政権が相次いで誕生した状況を“ピンクの潮流”と呼んだ。

暴力革命を意味する“赤”ではなく、穏健な社会主義をピンクと表現した。

その潮流が2020年代に再び起こった。かっ

て新自由主義の優等生とされたチリでは、格差是正などを訴えて学生運動を率いたボリッチ大統領が21年に選出された。数か月後にはコロンビアで初の左派政権となるペトロ政権が発足。中南米最大の経済大国ブラジルでも、22年の大統領選で国民は再び左派指導者のルラ氏を選んだ。

11月に大統領選を控えるチリでは、移民排斥などを訴える極右のカストロ氏が有力候補だ。就任当初に高い支持率を得ていたボリッチ氏は支持率の低下にあえぐ。26年に大統領選を予定するコロンビアとブラジルでも、左派与党からの支持離れが目立つ。

ボリビアでは社会主義政権が幕を下ろした。経済の安定や治安の改善に答えを

出せない政治への不満を背景に、2020年代から左派政権の誕生が相次いだ南米の“ピンクの潮流”に変化が生まれている。

ブラジル、メキシコ、コロンビア、アルゼンチン、ペルー、ベネズエラ、チリといった人口の多い7カ国が左派指導者によって統治されるようになり、地域人口の80%を占めるなど、歴史的な転換点となっている。

しかしこれらの新しい左派政権は、保守勢力の巻き返しやグローバル市場の影響力の強さなど多くの課題に直面しており、その展望は楽観視できなくなっている。



前頁の図にあるピンクの潮流が大きく変わってきている。

ボリビアもこの10月から青色に代わり、チリもこの11月の選挙で青色の右派政権に代わる公算が大である。来年大統領選を予定しているコロンビアとブラジルも左派政権からの支持離れが目立ち、青色に替わる可能性がある。

そうすると南米のほとんどの国が右派あるいは右派寄りの政権の青色になってしまう。

ただ中南米の人たちは、右派、左派とイデオロギーで政権を選ぶより、自分たちの目先の生活をどちらが良くしてくれるかで選択するので右派政権に代わっても、生活が良くならなければまた左派政権を選択するようになるであろうから、数年したら南米全体が赤色に変わるかもしれない。

ボリビアでは南米の反米左派を代表するモラレス元大統領が2006～19年までおよそ14年間にわたって国を率いた。初の先住民族出身の大統領として、格差是正を掲げて給付金の拡充などをすすめて、貧困率の低下に貢献した。

ボリビアは電気自動車に使うリチウムの埋蔵量が世界最大規模を誇る。天然ガ

や銀などの資源にも恵まれている。豊富な資源をもとに高い経済成長を達成していたが、近年は陰りを生じていた。石油や主要輸出品である天然ガスの生産減少と価格下落が経済を圧迫し、国民は高インフレや燃料不足に不満を高めた。今回の選挙で与党から出馬した候補は第一回投票で 6 位にとどまり、支持離れが顕著だった。



ボリビアのウユニ湖。ここでリチウムの採掘がはじまっている。また観光地としても多くの観光客が訪れる。

ボリビアは電気自動車に使うリチウム埋蔵量は 2,100 万トンで、全世界の 23.4% を占め、世界最大である。特に、ボリビア、チリ、アルゼンチンが国境を接するアンデス高原地域一帯は“リチウム・トライアングル”と呼ばれ、世界のリチウム埋蔵量の 55% を占める。

長く対立の続いてきた米国との関係も変化する見通しだ。バス氏は 9 月米国と 15 億ドル規模の経済協力協定を結び計画を発表した。ルビオ国務長官はボリビアの決選投票を前に“両候補はより良い対米関係を望んでいる。この選挙は変革のチャンスだ”と述べていた。



ボリビア大統領に中道のパス氏 20年続いた反米左派政権に幕...

新大統領バス氏

ボリビアの国土は日本の約 3 倍で内陸国である。小生は隣国のブラジル、ペルー、チリ、アルゼンチンには行ったことがあるが、ボリビアには足を踏み入れたことはない。

かつて“黄金の玉座に座る乞食”と形容されたように、豊かな天然資源を持つにも関わらず実際には貧しい状態が続いており、現在もラテンアメリカ最貧国の一つである。推定 1 万 4000 人の日系ボリビア人がおり日本人町もある。

ここで南米大陸について簡単に触れる。世界には 6 つの大陸がある。大きさの順ではユーラシア大陸、アフリカ大陸、北アメリカ大陸、南アメリカ大陸、南極大陸、オーストラリア大陸。

ユーラシア大陸はヨーロッパとアジアが一体となった地球最大の陸地で面積は約 5.500 万平方キロで、地球の陸地面積の約 36% を占め、世界人口の約 72% が居住している。

南米大陸は約 1800 万平方キロで、世界 4 位の大陸であるが、国は 12 か国しかなく、その中でもブラジルとアルゼンチンだけで 70% 弱の広さを占める。

ブラジルは世界 5 位、アルゼンチンは 8 位の面積がある。一方アフリカ大陸は約 3000 万平方キロの広さで南米大陸より 4 割弱広いが国の数は 54 か国と多く、一国当たりの面積は狭い。



ボリビアの首都ラパス

ラパスは標高 3600 メートル、世界で最も高所にある首都である

今回の選挙の最大の争点は、ボリビア経済の立て直しであ

った。当選した中道のキリスト教民主党のパス上院議員は中央政府から地方自治体への権限と予算の移譲を進めることを公約に掲げた。また A P E C 加盟を目指す意向も示しており、国際社会との関係改善を目指す姿勢が見られた。

約 20 年間続いた左派の社会主義運動党 (M A S) 政権は、ドルに依存しない外貨規制や独自のエネルギー政策を進めてきたが、経済の立て直しが急務となっていた。多くの有権者は、現在の経済状況から生活に苦しんでおり“M A S 党以外の政党”を選ぶという投票行動に繋がったと考えられる。